

「清水港の優位性を長野県の人に知ってほしい」

総務経済常任委員会 静岡県管理局と意見交換

総務経済常任委員会は昨年9月27日、28日の両日、閉会中の所管事務調査を行いました。静岡市清水区の「清水港」を視察し、港を管理する静岡県清水港管理局や、鈴木など企業関係者と意見交換しました。

視察は、一昨年の諏訪圏工業メッセ（諏訪市）

での交流がきっかけです。静岡県が所有する港務艇「日の出」に乗船し、約40分間、清水港の湾内を一周。大型コンテナ船の荷降ろしなどを船上から見学しました。清水港では、中部横断自動車道の開通を前に、中

テナターミナルの拡張工事が進んでいます。

管理局によると、清水港を利用する長野県内企業は少なく、コンテナ輸出入量のシェアは、東京港31%、横浜港25%、名古屋港26%に対し、清水港は4%にとどまります。中部横断道の開通により、清水港―中央道諏訪南IC間の往復時間は、現状の6時間から4時間以内に短縮するため、管理局や、流通業務を担う鈴木とは、長野県内のシェアを20%に高める目標を掲げています。

また、大幅な時短により、清水港に入港する大型客船乗船者の国内ツアー目的地を「富士見町まで広げることができると言います。27年度、清水港に入港した大型客船はダイヤモンド・プリンセス、飛鳥IIなど延べ19隻です。管理局は「体験型スキーツアーも計画したい」と提案しました。

藤浪哲也局長は「中部横断道の開通を前に、清水港の優位性を長野県の人に知ってほしい」と視察を歓迎。長野県に経済交流の熱い視線を投げ掛けています。清水港は近い将来、身近で重要な港になる。そんな思いを抱かせる視察研修となりました。

（総務経済常任委員会副委員長

川合弘人）



清水港管理局の藤浪哲也局長（右から2人目）らの案内で静岡県の港務艇「日の出」に乗船し、清水港を視察する総務経済常任委員会の委員



都留市の「お試し居住」施設を見学する社会文教常任委員会の委員

社会文教常任委員会 都留市など3市町を視察

社会文教常任委員会は昨年11月9日、10日の両日、議会閉会中の所管事務調査を行い、山梨県の富士川町、都留市、静岡県静岡市の3市町を訪問しました。テーマは「子どもの健全育成と親の子育て支援」や、CCRC構想などです。

富士川町は、平成22年に鰍沢町、増穂町との3町合併により誕生した町で、人口、面積は富士見町とほぼ同じです。子育て支援課には、他市町村にあまり例のない「母子保健担当」という妊娠段階から支援する町職員がいて、不妊治療支援事業や、0歳から18歳までの医療費保険診療

分の助成、ひとり親家庭への支援などの取り組みをしています。中学生、高校生には、思春期体験学習を通じて、子育ての大切さを教育の場で教えています。

静岡市は、財政豊かな自治体ならではの取り組みを進めています。子育て支援センター19カ所、子育て世帯包括支援センター2カ所、保健福祉センター9カ所、児童館は11カ所あります。このうち、中央子育て支援センターを視察しました。

都留市では、全国的な人口減少と高齢化に対応し、「生涯活躍のまち・つる」を推進。

5つのプロジェクトチームが、まちの弱み（課題）3点、強み（地域特性）4点を挙げ、推進計画を進めています。見学したエコハウス「移住定住相談センター」は、相談窓口だけでなく、「お試し居住」ができる施設です。中高年者が1泊2日の宿泊を無料で体験でき、定住のイメージづくり

にも役立っているとのことでした。「都留市版CCRC構想」は着実に実現に向かっていくことが伺えました。

（社会文教常任委員会副委員長

矢島 尚）